教科・分野:	国語	科目:	現代の国語			単位数:	2	指導学年:	1
担当教諭:									
使用教科書	現代の国語(東京書籍)	)		副教材	常用漢字	☑フォルダ(浜	(島書店)		
		田川水川	三訂版	よむナビ現代	文1 基礎	セ編(いいず	な書店)		

## 年間指導目標:

実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。

論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考え 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化としての自覚をもち、

	知識・技能(知)	思考力・判断力・表現力(思)	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力(態)
	実社会に必要な国語の知識や技能を身	論理的に考える力や深く共感したり豊	言葉がもつ価値への認識を深めるとと
	につけている。	かに想像したりする力を伸ばし、他者	もに、生涯にわたって読書に親しみ自
		との関わりの中で伝え合う力を高め、	己を向上させ、我が国の言語文化とし
評価規準		自分の思いや考えを広げたり深めたり	ての自覚をもち、言葉を通して他者や
		している。	社会に関わろうとする態度を養おうと
			している。

配当

時数 学期 考查 単元及び指導内容 観点 評価規準 d b е С а 単元名【視点を変える】 ・言葉に、認識や思考を支える働きがあることを 読む『木を見る、森を見 理解している。 (知) 0  $\bigcirc$  $\bigcirc$  $\bigcirc$ る』 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕 タイトルや具体例に注意し 方について理解している。 て主張を捉え、物事を多様 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて 1 な視点から見る姿勢を養 内容や構成、論理の展開などにおいて叙述を基に 間 学 12 (思)  $\bigcirc$ 0 0 う。 的確にとらえ、要旨や要点を把握している。 期 読む『水の東西』 査 評論の型を理解し、評論の ・粘り強く本文の要点を把握し、学習課題に沿っ 読み方を知る。 て視点を変えてみることを理解し、自ら論点にお  $\bigcirc$  $\bigcirc$ (熊)  $\bigcirc$  $\bigcirc$ ける課題を調べようとしている。 実社会において理解したり表現したりするために必要な 単元名【言葉へのまなざ 語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、 L] (知) 用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使う  $\bigcirc$ 0 0  $\bigcirc$ 読む『「身銭」を切るコ ことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ミュニケーション』 筆者独自の表現や具体例の 「読むこと」において、目的に応じて、文章や図 働きに注意して読み、コ 期 1 表などに含まれている情報を相互に関係付けなが 末 ミュニケーションの在り方 学 12 (思) ら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構  $\bigcirc$ 0  $\bigcirc$ について考える。 期 成や論理の展開について評価したりするととも 査 探求『発想を広げて課題を に、自分の考えを深めている。 見つける』

		発想を広げてアイディアを 整理し、的確に伝える。 探求学習も概要を理解す る。		粘り強く言葉の意味への理解に努め、学習課題に 沿って筆者の主張を踏まえ、言葉の働きについて 自分の考えをまとめようとしている。		0	0	0	0	
		単元名【共に生きる】 読む『真の自立とは』 「自立」の在り方について 考察する評論を読み、自分	(知)	分、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方 について理解している。	0	0	0	0		
2     中 る。       労期     請む『自立と 光喩や具体例 査 容を読み取り を支えるもの	読む『自立と市場』 比喩や具体例に注意して内	(思)	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、 内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に 的確に捉え、要旨や要点を把握している。	0	0		0		16	
	容を読み取り、自立とそれを支えるものの関係について考えを深める。	(能)	積極的に「自立」と、その対極である「依存」について筆者の考えを読み取り、理解を深め、学習課題に沿って実社会における「市場」の評価すべき点と注意すべき点をまとめようとしている。		0	0	0			
		単元名【科学から見た人間】 読む『生物の多様性とは何		主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。	0	0	0	0		
2 学期	期末考本	か』 生物の多様性について書かれた評論を読みヒトが自ら守るべき「分際」について考えを深める。 探求『異なる主張の文章を読み比べて自分の意見を書	(思)	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、 内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に 的確に捉え、要旨や要点を把握している。 「書くこと」において、読み手の理解が得られる よう、論理の構成情報の分量や重要度を考えて文 章の構成や展開を工夫している。	0	0		0		16
	查	く』 読み比べて考えを明確に し、伝わりやすい構成で書 く。		粘り強く筆者が定義する内容を理解し、学習課題 に沿って「生物多様性」における自分の考えを発 表しようとしている。 積極的にテーマに沿った本を探し、学習の見通し を持って異なる主張の文章を読み比べ、自分の考 えが読み手に伝わるように意見文としてまとめよ うとしている。		0	0	0	0	
		単元名【近代の先へ】 読む『暇と退屈の倫理学』 暇を得た社会の中で、個人はど う生きればよいかについて引用 と主張の関係に注意して読み取	(知)	・言葉に、認識や思考を支える働きがあることを 理解している。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕 方について理解している。	0	0	0			
3 学 期	年末考	注 読む『<私>時代のデモクラ	, ,	「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開について評価したりするとともに、自分の考えを深めている。	0	0				22
			(能)	粘り強く筆者の考えと引用を読み解き、学習課題 に沿って実社会における生き方について筆者の主 張を理解し、自分の考えをまとめようとしてい る。		0	0		0	
									合計	78

教科・分野:	国語	科目:	言語文化			単位数:	2	指導学年:	1
担当教諭:									
使用教科書	精選 言語文化(第一	学習社)		副教材	プレミアム	カラー国語	便覧(数研	出版)	
区用扶付自				田リおハリ	これからの	)古典文法	改訂版(尚	立出版)	

#### 年間指導目標:

実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。

論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考え 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化としての自覚をもち、

	知識・技能(知)	思考力・判断力・表現力(思)	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力(態)
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の	論理的に考える力や深く共感したり豊	言葉がもつ価値への認識を深めるとと
	知識や技能を身につけるとともに、我	かに想像したりする力を伸ばし、他者	もに、生涯にわたって読書に親しみ自
	が国の言語文化に対する理解を深める	との関わりの中で伝え合う力を高め、	己を向上させ、我が国の言語文化の担
評価規準	ことができるようにする。	自分の思いや考えを広げたり深めたり	い手としての自覚をもち、言葉を通し
		することができる。	て他者や社会に関わろうとする態度を
			養う。

配当 単元及び指導内容 観点 評価規準 時数 学期 考査 d b С е 古文の学習 ・言葉には、文化の継承、発展、想像を支える働 我が国の言語文化について きがあることを理解している。 (知) ・古典を読むために必要な文語の決まりや古典特 理解を深めるために、古典 0 0 の世界に親しむことの意義 有の表現・時間の経過などによる言葉の変化につ を知る。 いて理解を深めている。 説話『児のそら寝』 ・我が国の言語文化についての理解を深めるため 中 古典の文章に慣れるととも に、古典の世界に親しむことの意義を理解してい 1 間 に、現代に通じる話のおも 12 学 考  $\bigcirc$ (思) 0 0 しろさや人間描写の巧みさ 加 ・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話 杳 を知る。 のおもしろさや人間描写の巧みさを理解してい ・これからの学習に見通しを持って、我が国の言 語文化に興味・関心を深め、それを継承していく (態)  $\bigcirc$  $\bigcirc$  $\bigcirc$  $\bigcirc$ ことについて強く自覚をもとうとしている。 ・積極的に説話を読み味わい、互いに話のおもし ・本文中に登場する主な常用漢字や語句・語彙、その文 小説『羅生門』 化的背景を理解している。 下人の行動や心理を基に場 (知)・本文中に登場する、我が国の言語文化に特徴的な語  $\circ$  $\circ$ 0 0 面の展開を捉え、老婆の語 句・語彙の文化的背景を理解し、語感を磨き語彙を豊か る論理が下人の決断に与え にしている。 た影響を読み取る。 ・作品の成立した背景やほかの作品などとの関係 説話『なよ竹のかぐや姫』 期 を踏まえ、内容の解釈を深めている。 古典特有の世界観に慣れる 1 末 (思) ・作り物語という文章の種類を踏まえて、内容や 0 0 0 とともに、千年以上前に作 12 学 考 展開を的確に捉え、作品に表れているものの見方 られた物語が現代まで継承 期 杳 や考え方を捉え、内容を解釈している。 されていることを知る。 ・登場人物の行動や心理を粘り強く読み解き、内 容や展開を捉えようとしている。 ・初期仮名物語に積極的に親しみ、学習課題に (能) 0  $\bigcirc$ 0  $\bigcirc$ 沿って伝奇性や心情描写の特色を促そうとしてい る。

□ 日本に記述された随筆を設 (88)
る。
一次
# といふ所あり
容や展開を捉えようとしている。 ・本文中に現れた作者の批評・教訓・感動などを 積極的に読み取り、考えたことを伝え合おうとしている。 ・本文中に登場する主な常用漢字や語句・語彙、 その文化的背景を理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・現在と過去とが交錯する文章展開を把握し、各場面における登場人物たちの思いを読み取っている。 ・我が国の言語文化について理解を深めるために、古典としての漢文を読むことに意義を理解している。 ・我が国の言語文化について理解を深めるために、古典としての漢文を読むことに意義を理解している。 ・我が国の言語文化について理解を深めるために、古典としての漢文を読むことに意義を理解している。 ・我が国の言語文化について理解を深めるために、古典としての漢文を読むことに意義を理解している。 ・我が国の言語文化について理解を深めるために、古典としての漢文を読むことに意義を理解している。 ・我が国の言語文化について理解を深めるために、古典としての漢文を読むことに意義を理解している。 ・我が国の言語文化について理解を深めるために、古典としての漢文を読むことに意義を理解している。 ・我が国の言語文化に大きな影響を与えた漢文に興味・関心を持っている。
我が国の言語文化への理解を深めるために、古典としての漢文を読むことの意義を知る。
学   戦国策『狐借虎威』
章展開を把握し、各場面に おける登場人物たちの思い を読み取る。 (態) ・これからの学習に見通しを持って、我が国の言 語文化に大きな影響を与えた漢文に興味・関心を 持っている。
1. = 1. = 20

教科・分野:	地理歴史	科目:	歴史総合			単位数:	2	指導学年:	1
担当教諭:									
使用教科書	詳述歴史総合(実教出)	□11 <i>≯/</i> 5 ★★	新詳歴史総						
区用软件音				田小久小					

## 年間指導目標:

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質、能力を育成することを目指す。

	知識・技能(知)	思考力・判断力・表現力(思)	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力(態)
	近現代史の諸事象について、世界と日本を広	近現代史の変化に関わる事象の意味・意	近現代史の変化に関わる諸事象について、
	く相互的な視座から俯瞰し、現代社会の諸課	義・特色などを、時期・年代・推移・比	よりよい社会の実現に向け課題を主体的に
	題に関わる近現代史に関する基本的な知識を	較・相互の関連・現在とのつながりなどの	追究・解決しようとする態度が身に付いて
=== /== +B <b>/</b> #	複数の史・資料を活用し様々な情報を適切か	項目に着目し、多面的・多角的に考察でき	おり、多角的・多面的な考察や深い理解を
評価規準	つ効果的に調べまとめる技能を身に付けてい	るとともに、歴史にみられる課題把握と解	通して涵養される日本国民としての自覚、
	る。	決を視野に入れた構想力、考察・構想した	わが国の歴史や文化に対する愛着、他国や
		ことを効果的に説明したりそれらを基に議	他国の文化を尊重することの大切さについ
		論したりする力が身に付いている。	てよく自覚している。

b:パフォーマンス

(実技・実習・課題)

a:定期考查

評価方法

c:小テスト等

d:自己評価

e:授業態度

配当 時数 学期 考查 単元及び指導内容 観点 評価規準 d b С е а 【第1編近代化と私たち】 18世紀ころのアジアと欧米諸国の多様な関係や社会・文 第1章 近代化への胎動 化、19世紀欧米諸国の産業革命や国民国家形成をきっか <sup>(知)</sup>けとした世界経済の変化に関する基本的な知識を複数の  $\bigcirc$  $\bigcirc$  $\bigcirc$  $\bigcirc$ ・17世紀以前のアジアの 繁栄とヨーロッパの海外 史・資料を活用し理解できている。 進出 18世紀ころのアジアと欧米諸国の多様な関係や社会・文 中 化、19世紀欧米諸国の産業革命や国民国家形成をきっか 1 第2章 欧米の市民革命 間 (思) けとした世界経済の変化に関する問いに対して歴史的な 学  $\bigcirc$ 0  $\bigcirc$ 12 と国民国家の形成 考 ものの見方、考え方に基づき考察し、根拠を基に判断・ ・17~18世紀のヨーロッパ 査 表現できている。 の主権国家体制 18世紀ころのアジアと欧米諸国の多様な関係や社会・文 化、19世紀欧米諸国の産業革命や国民国家形成をきっか 0 (態) けとした世界経済の変化に関する問いに対して自らの答  $\bigcirc$  $\bigcirc$ えを出そうと努力し学習改善しようとしている。 19世紀のロシアの様子とアメリカの発展、アジアや日本 ・19世紀のロシア、アメリ カの発展 に進出した欧米諸国とそれに対するアジア諸国と日本の (知) 対応に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し  $\bigcirc$  $\bigcirc$ 0 第3章 アジアの変容と 理解できている。 日本の近代化 19世紀のロシアの様子とアメリカの発展、アジアや日本 期 ・アヘン戦争の衝撃と日本の近 1 に進出した欧米諸国とそれに対するアジア諸国と日本の 末 代化 学 0 0 12 (思) 対応に関する問いに対して歴史的なものの見方、考え方  $\bigcirc$ 老 に基づき考察し、根拠を基に判断・表現できている。 査 19世紀のロシアの様子とアメリカの発展、アジアや日本 に進出した欧米諸国とそれに対するアジア諸国と日本の (態) 対応に関する問いに対して自らの答えを出そうと努力し 0 0  $\bigcirc$ 

学習改善しようとしている。

I		第4章 帝国主義の時代		帝国主義期における欧米諸国とアジア・アフリカの関係			l			
		・帝国主義と世界分割、 日清日露戦争と日本 【第2編 国際秩序の変化	(知)	とアジアや日本での国民国家形成の動向、第一次世界大戦期における世界や日本の動向に関する基本的な知識を複数の史・資料を活用し理解できている。	0	0	0	0		
2 学 期	中間考査	や大衆化と私たち】 第5章 第一次世界大戦 <u>と大衆社会</u> ・第一次世界大戦と日本	(思)	帝国主義期における欧米諸国とアジア・アフリカの関係 とアジアや日本での国民国家形成の動向、第一次世界大 戦期における世界や日本の動向に関する問いに対して歴 史的なものの見方、考え方に基づき考察し、根拠を基に 判断・表現できている。	0	0	0		0	16
			(能)	帝国主義期における欧米諸国とアジア・アフリカの関係とアジアや日本での国民国家形成の動向、第一次世界大戦期における世界や日本の動向に関する問いに対して自らの答えを出そうと努力し学習改善しようとしている。		0		0	0	
		・大戦後の世界と民族運動、社会運動の広がりと普通選挙 第6章 経済危機と第二	(知)	第一次世界大戦を経た国際関係の変化や戦後の各国の社会の形成、世界恐慌から第二次世界大戦に向かう日本や世界の動向に関する基本的な知識を複数の史・資料を活用し理解できている。	0	0	0	0		
2 学 期	期末考査	次世界大戦 ・世界恐慌からファシズムへ ・第二次世界大戦の惨禍	(思)	第一次世界大戦を経た国際関係の変化や戦後の各国の社会の形成、世界恐慌から第二次世界大戦に向かう日本や世界の動向に関する問いに対して、歴史的なものの見方、考え方に基づき考察し、複数の根拠を基に判断・表現出来ている。	0	0	0		0	16
			(態)	第一次世界大戦を経た国際関係の変化や戦後の各国の社会の形成、世界恐慌から第二次世界大戦に向かう日本や世界の動向に関する問いに対して自らの答えを出そうと努力し学習改善しようとしている。		0		0	0	
		第7章 冷戦と脱植民地         化         ・冷戦と第三世界の出現、	(知)	第二次世界大戦を経た国際社会の変化、冷戦下から終結後の多極化、また民族紛争や地域紛争、グローバル化を経て現代社会が直面する諸問題に関する基本的な知識を 史・資料を活用し理解できている。	0	0				
3 学 期	学年末考査	高度成長と日本 第8章 多極化する世界 ・石油危機から冷戦の終結へ 第9章 グローバル化と 現444本	(思)	第二次世界大戦を経た国際社会の変化、冷戦下から終結後の多極化、また民族紛争や地域紛争、グローバル化を経て現代社会が直面する諸問題に関する問いに対して歴史的ものの見方、考え方に基づき考察し、根拠を基に判断・表現できている。	0	0		0	0	22
		現代社会 ・地域紛争とこれからの課題	(能)	第二次世界大戦を経た国際社会の変化、冷戦下から終結後の多極化、また民族紛争や地域紛争、グローバル化を経て現代社会が直面する諸問題に関する問いに対して自らの答えを出そうと努力し学習改善しようとしている。		0		0	0	
<u> </u>									合計	78

教科・分野:	数学	科目:	数学		単位数:	3	指導学年:	1
担当教諭:								
使用教科書	新編 数学   (数研出	版)		副教材	+A (数研)			
使用软件音				田川弘八川				

## 年間指導目標:

数学における概念や原理・原則を体系的に理解するとともに、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。 事象を数学的に考察したり表現する能力を培い、数学のよさを認識できるようにし、それらを活用する態度を育てる。 数学を用いた問題解決の過程を振り返って考察し、自己評価の基に改善しようとする態度を養う。

	知識・技能(知)	思考力・判断力・表現力(思)	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力(態)
	・基本的な概念や原理・原則を体系的	・数学を活用して事象を論理的に考察	・数学の良さを認識し積極的に活用し
	に理解する。	する力、事象の本質や他の事象との関	ようとする態度、困難な問題にあって
	・日常の諸問題を数学的な表現を用い	係を認識し、統合的・発展的に考察す	も粘り強く解決しようとする態度を養
評価規準	て考察したり、数学的に解釈したりす	る力を養う。	う。
	る力を身に着ける。	・数学的な表現を用いて社会における	・問題解決の過程や自己の学習過程を
	・数学的な問題を的確に処理し、解決	量や事象を簡潔・明瞭・的確に表現す	振り返って考察を深めたり、評価・改
	する。	る力を養う。	善しようとする態度や創造性の基礎を
			養う。

評価方法
a:定期考査 b:パフォーマンス (実技・実習・課題) c:小テスト等 d:自己評価 e:授業態度

配当

時数 学期 考査 単元及び指導内容 観点 評価規準 d а b С е 第1章 数と式 基本的な多項式の演算、解法とその応用を理解 (知)し、方程式と不等式等における基礎的な知識を身 第1節 式の計算 0  $\bigcirc$ 第2節 実数 に付けている。 第3節 1次不等式 数の体系を実数まで拡張する意義に気付かせ、数 中 1 の概念の理解を深める。 間 (思)  $\bigcirc$  $\bigcirc$  $\bigcirc$ 学 18 数と式、実数をを具体的な事象に関連した課題の 考 期 解決に活用し、数学的に考察できる。 査 数と式、実数に関心をもち、問題解決のために主 体的かつ意欲的に活用する。 (態) 0 0 0 事象を数学的にとらえることのよさを認識し、学 習する理論を積極的に活用しようとする。 第3節 1次不等式 不等式の解の意味や不等式の性質および集合と命 (知) 題に関する基本的な概念について理解する。  $\bigcirc$  $\bigcirc$ 第2章 集合と命題 不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察 期 1 したり、命題の条件や結論に着目し、命題に応じ 末 (思)  $\bigcirc$ 0 学 18 て対偶の利用や背理法の利用を適切に判断するこ 考 期 とで、命題を証明することができる。 査 具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式 および集合と命題の概念度を活用したりする力を (熊)  $\bigcirc$  $\bigcirc$  $\bigcirc$ 培う。

2	中	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変 化	(知)	2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに、関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。	0	0			
学期	間考査		(思)	2次関数の式とグラフとの関係について、コン ピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくな どして多面的に考察する。	0	0	0		24
			(態)	日常生活における具体的な事象の考察に、2次関数の最大・最小の考えを活用しようとする。		0	0	0	
	期	第3節 2次方程式と2次不 等式		2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。 三角比の意味やその基本的な性質について理解する。	0	0			
2 学 期	末考	第4章 図形と計量 第1節 三角比	(思)	2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解する。	0	0	0		24
	査		(態)	2次不等式を解くときに、図を積極的に利用する。2次関数で表される事象の具体例について興味をもち、考察しようとする。		0	0	0	
		第1節 三角比 第2節 三角形への応用 第5章 データの分析	(知)	三角比の意味やその基本的な性質について理解 し、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力を 養う。データの散らばり具合や傾向を数値化する 方法を考察する力を養う。	0	0			
3 学 期	学年末考香		(思)	日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、 三角比、を活用して問題を解決したりする力など を培う。目的に応じて複数の種類のデータを収集 し、分析を行うことができる。	0	0			33
	. д.		(態)	日常の事象や社会の事象などに三角比を活用しようとする。データを分析することで、主張の妥当性について、批判的に考察したりする力などを養う。		0	0	0	117

教科・分野:	数学	科目:	数学A			単位数:	2	指導学年:	1
担当教諭:									
使用教科書	新編 数学A(数研出版)	)		□11 <i>≯/</i> 5++	教科書傍用			(数研出版)	
以用扒付官				田丁子入小丁					

## 年間指導目標:

数学における概念や原理・原則を体系的に理解するとともに、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。 事象を数学的に考察したり表現する能力を培い、数学のよさを認識できるように、それらを活用する態度を育てる。 数学を用いた問題解決の過程を振り返って考察し、自己評価の基に改善しようとする能力を養う。

	知識・技能(知)	思考力・判断力・表現力(思)	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力(態)
	図形の性質、場合の数と確率について	図形の構成要素間の関係などに着目	数学のよさを認識し数学を活用しよう
	の基本的な概念や原理・法則を体系的	し、図形の性質を見いだし、論理的に	とする態度、粘り強く考え数学的論拠
	に理解するとともに、数学と人間の活	考察する力、不確実な事象に着目し、	に基づいて判断しようとする態度、問
評価規準	動の関係について認識を深め、事象を	確率の性質などに基づいて事象の起こ	題解決の過程を振り返って考察を深め
	数学化したり、数学的に解釈したり、	りやすさを判断する力、数学と人間の	たり、評価・改善したりしようとする
	数学的に表現・処理したりする技能を	活動との関わりに着目し、事象に数学	態度や創造性の基礎を養う。
	身に付けるようにする。	の構造を見いだし、数理的に考察する	
		力を養う。	

評価方法
a:定期考査 b:パフォーマンス (実技・実習・課題) c:小テスト等 d:自己評価 e:授業態度

配当

時数 学期 考査 単元及び指導内容 評価規準 d b С 集合について理解し、その要素を記号を使って書 ・集合 第1章 場合の数と確率 き表せ、その要素の個数を求めることができる。 第1節 場合の数 (知) 場合の数をもれなくかつ重複なく数えることがで  $\circ$  $\bigcirc$ ・集合の要素の個数 きる。 ・場合の数 中 ベン図を利用して集合を図示することで、集合の 1 間 要素の個数を考察することができる。 学 12 (思) 0 老  $\circ$ 場合の数を数える適切な方針を考察することがで 期 杳 きる。 集合の要素の個数を求める方法に興味を示し、そ れを利用しようとする。 (態)  $\bigcirc$  $\bigcirc$  $\bigcirc$ 樹形図、和の法則や対称性による場合の数の数え 方に興味をもつ。 • 順列 順列の総数、階乗、組合せの総数を記号で表し、 組合せ それを活用できる。 (知) 0  $\bigcirc$ 順列、組合せに条件が付く場合に、条件の処理の 仕方を理解している。 期 条件が付く順列、組合せを、見方を変えたり別な 1 末 ものに対応させたりして処理することができる。 学 12 考 (思) 組合せの総数を順列の総数をもとにして考察する  $\bigcirc$  $\bigcirc$  $\bigcirc$ 期 査 ことができる。 順列と組合せの違いに興味・関心をもち、その総 (態)数を求めようとする。  $\bigcirc$  $\bigcirc$  $\bigcirc$ 

期 考 査			第2節 確率 ・事象と確率 ・確率の基本性質 ・独立な試行と確率	(知)	確率の意味、思考や事象の定義を理解している。 確率の基本性質を理解し、様々な事象・試行の確 率の求め方がわかる。	0	0			
(根)   つ。 複雑な事象の確率を意欲的に求めようとする。   ○   ○   ○   ○   ○   ○   ○   ○   ○	学	間考		(思)	もとに、数量的に捉えることができる。 既知の確率の知識を利用して、様々な試行の確率	0	0	0		16
・期待値 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 ・三角形の別の比 ・三角形の外心 ・内心・重心       (知) 線分の内分・外分や、三角形の外心、内心、重心 の基本事項を理解している。 条件付き確率や期待値の考えを用いて需要的に 考察することができる。 適切な補助線を引き、既習事項を用いて論理的に 考察することができる。 (態) 図形に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。 (態) 図形に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。 (知) 方べきの定理を利用して、線分の長さなどを求めることができる。 ・2つの円       ○         ・チェバの定理 ・バスラウスの定理 ・円に内接する四角形 ・円と直線 ・2つの円       チェバの定理、メネラウスの定理、円の基本的な性質を理解している。 方べきの定理を利用して、線分の長さなどを求めることができる。 ・2つの円       ○         ・年 期 考 直       ・アェバの定理、メネラウスの定理、円の基本的な性質について論理を引用して、線分の長さなどを求めることができる。 ・2つの円       ○         ・アェバの定理、メネラウスの定理、内の基本的な性質について論理を引用して、線分の長さなどを求めることができる。 ・20の定理を利用して、線分の長さなどを求めることができる。       ○         ・アェバの定理、メネラウスの定理、内の基本的な性質について論理を引用して、線分の長さなどを求めることができる。       ○         ・アェバの定理、メネラウスの定理、内の基本的な性質について論理的に考察することができる。       ○         ・アェバの定理、メネラウスの定理、内の基本的な性質について論理的に考察することができる。       ○         ・アェバの定理、メネラウスの定理、内の基本的な性質について論理的に考察することができる。       ○         ・アェバの定理、メネラウスの定理、内の基本的な性質について過解を表することができる。       ○         ・アェバの定理、メネラウスの定理、内の基本的な性質について過解を表することができる。       ○         ・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア				(態)	7.		0	0	0	
2 学期       ・三角形の外心・・内心・重心       (思)       (思)       近次な補助線を引き、既習事項を用いて論理的に考察することができる。       16         日常の事象における不確実な事柄について、条件付き確率や期待値を用いて考察しようとする。       (態)       図形に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。       ○			・期待値 第2章 図形の性質	(知)	期待値を求めることができる。 線分の内分・外分や、三角形の外心、内心、重心	0	0			
日常の事象における不確実な事柄について、条件付き確率や期待値を用いて考察しようとする。 図形に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。 図形に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。 のの形に関する性質に興味を示し、積極的に考察しまうとする。 のの形に関する四角形の表表の表示できる。 のののでである。 のののでである。 のののでは、カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カ	学	末考	・三角形の外心	(思)	とができる。 適切な補助線を引き、既習事項を用いて論理的に	0	0	0		16
・メネラウスの定理 ・円に内接する四角形 ・円と直線 ・2つの円       (知)       性質を理解している。 方べきの定理を利用して、線分の長さなどを求めることができる。       ○       ○         ず年 ・2つの円       チェバの定理、メネラウスの定理、円の基本的な性質について論理的に考察することができる。       (思)       円や直線を動的にとらえ、それらの位置関係を考察することができる。       ○ </td <td></td> <td>ф</td> <td></td> <td>(態)</td> <td>付き確率や期待値を用いて考察しようとする。 図形に関する性質に興味を示し、積極的に考察し</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td>		ф		(態)	付き確率や期待値を用いて考察しようとする。 図形に関する性質に興味を示し、積極的に考察し		0	0	0	
3       年         学 末       性質について論理的に考察することができる。         用や直線を動的にとらえ、それらの位置関係を考察することができる。       〇         事者       明らかに見える性質を、論理的に考察しようとする。         (態)       図解に関する様々な定理や性質について興味・関			・メネラウスの定理 ・円に内接する四角形 ・円と直線	(知)	性質を理解している。 方べきの定理を利用して、線分の長さなどを求め	0	0			
(態) 図解に関する様々な定理や性質について興味・関	学	年末考	・2つの円	(思)	性質について論理的に考察することができる。 円や直線を動的にとらえ、それらの位置関係を考	0	0			22
수計 78				(態)	る。 図解に関する様々な定理や性質について興味・関		0	0	)	78

教科・分野:	理科	科目:	化学基礎		単位数:	2	指導学年:	1
担当教諭:								
使用教科書	高等学校 化学基礎(	第一学習社)	)	□ I ★ ナ + + +			記入式演習	
区用软件音				田小汉们				

## 年間指導目標:

日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに 関する基本的な技能を身に付けるようにする。観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。物質とその変化に主体的に関わ り、科学的に探究しようとする態度を養う。

	知識・技能(知)	思考力・判断力・表現力(思)	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力(態)
	日常生活や社会との関連を図りながら、物	物質とその変化から問題を見出だし,見通	物質とその変化に主体的に関わり、見通し
	質とその変化についての基本的な概念や原	しをもって観察,実験などを行い,得られ	をもったり振り返ったりするなど, 科学的
評価規準	理・法則などを理解しているとともに,科学	た結果を分析して解釈し,表現するなど,	に探究しようとしている。
	的に探究するために必要な観察,実験など	科学的に探究している。	
	に関する基本操作や記録などの基本的な技能		
	を身に付けている。		

b:パフォーマンス

(実技・実習・課題)

a:定期考查

\_ 評価方法

c:小テスト等

e:授業態度

d:自己評価

配当 時数 学期 考查 単元及び指導内容 観点 評価規準 d е а b С ・物質が混合物と純物質、および単体と化合物に分けら 序章 化学と人間生活 れることを理解し、それらの違いを理解している。 第1章 物質の構成 (知) 0 0 0 0 ・粒子の熱運動と粒子間に働く力との関係によって, 状 第1節 物質の成分と構成元 態が変化することを理解している。 素 ・観察・実験を通して、混合物、純物質、単体、化合物 中 ①物質の成分 について考察し、それぞれの特徴を説明できる。 1 間 ②物質の構成元素 (思)・粒子の熱運動と温度の関係や、粒子の熱運動と粒子間 学 12 0 0 0 考 ③状態変化と熱運動 に働く力の関係をもとに、温度と物質の状態変化の関係 期 杳 を的確に表現することができる。 ・物質に関心をもち、物質の取り扱い方を理解しようと する。 (態)  $\bigcirc$ 0  $\bigcirc$ ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的 に探究しようとする。 ・原子の構造および陽子,中性子,電子の性質を理解 第2節 原子の構造と元素の し、知識を身に付けている。 周期表 ・原子の電子配置を理解し、原子番号20番までの代表的 ①原子の構造 な典型元素について、簡単なモデルで表すことができ ②イオン (知)  $\bigcirc$  $\bigcirc$  $\bigcirc$ ③元素の相互関係 0 ・原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について 理解している。 期 ・イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオン 1 末 の表し方やイオン化エネルギーについての知識を身に付 学 12 考 けている。 期 杳 ・原子の電子配置と周期表の族や周期との関係を理解 (思) し、周期性が現れる理由を的確に表現することができ 0  $\bigcirc$  $\bigcirc$  $\bigcirc$ ・物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的 に物質を探究しようとする。 (態) ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的  $\bigcirc$  $\bigcirc$  $\bigcirc$ に探究しようとする。

		第3節 化学結合 ①イオン結合 ②共有結合 ③金属結合 ④結晶の比較	(知)	・イオン結合やイオン結合でできた物質の性質を理解し、知識を身に付けている。 ・共有結合を電子配置と関連付けて理解し、共有結合の表し方や配位結合についての知識も身に付けている。 ・電気陰性度や結合の極性を理解し、分子の極性についての知識を身に付けている。	0	0	0	0	
2 学期	中間考査	⑤結晶と単位格子	(思)	・イオン結晶の性質をイオンやイオン結合にもとづいて説明できる。 ・分子の極性を電気陰性度や結合の極性、分子の形をもとに総合的に判断できる。 ・金属結晶の性質を金属結合にもとづいて的確に表現できる。 ・物質の性質を調べる実験を通して、化学結合と結晶の性質の関係を考察できる。 ・観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりできる。	0	0	0	0	16
			(態)	・物質に関心をもち、物質の取り扱い方を理解しようとする。 ・物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとする。 ・物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子から成り立っていることを理解しようとする。 ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。		0	0	0	
2	期末	第2章 物質の変化 第1節 物質量と化学反応式 ①原子量・分子量と式量 ②物質量 ③溶解と濃度 ④化学変化と化学反応式 ⑤化学反応の量的関係 ⑥化学変化における諸法則	(知)	・物質の構成粒子の質量の表し方として、原子量・分子量・式量を理解している。 ・物質量が粒子の数にもとづく量であることを理解し、物質量と質量、気体の体積との関係も理解する。 ・水溶液の濃度を、モル濃度を用いて表したり、濃度のわかっている水溶液中の溶質の物質量を計算によって求めることができる。 ・化学反応式を用いて化学変化を表すことができる。 ・物質量の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。	0	0	0	0	
男 期	考查		(思)	・化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを理解し、化学反応式をもとに物質の量的関係を判断できる。 ・実験で得られたデータをグラフ化するなどの処理を行い、結果を化学的に考察することができる。 ・化学反応の量的関係の実験から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりできる。	0	0	0	0	16
			(態)	・化学変化の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。 ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。		0	0	0	

3 学期	F 庆	(知)	・酸と塩基の定義や分類を理解し、酸と塩基を価数や強弱にもとづいて分類することができる。 ・水溶液の性質(酸性・中性・塩基性)と水素イオン濃度やpHとの関係を理解し、知識を身に付けている。 ・中和反応について理解し、塩のなりたちや塩の水溶液の性質を理解している。 ・中和反応に関与する物質の量的関係を理解し、中和反応における酸と塩基の量的関係を計算によって求めることができる。 ・中和滴定の操作や中和滴定曲線を理解し、実験器具の適切な取り扱いやグラフの見方などの知識を身に付けている。・酸化・還元の定義を理解し、知識を身に付けている。・酸化還元反応を酸化数の増減によって判断することができる。 ・酸化剤、還元剤のはたらきを理解し、半反応式をもとに酸化還元反応を組み立てることができる。 ・酸化還元反応の量的関係を理解している。 ・酸化還元反応の量的関係を理解している。 ・金属のイオン化傾向や金属の反応性を理解し、知識を身に付けている。 ・酸化還元反応の利用例として、電池や電気分解などがあることを理解し、電池の構成などの基本的な知識を身に付けている。 ・酸・塩基の観察、実験から共通性を見いだし、酸・塩	0	0	0	0	22
		(思)	基の定義を理解し、日常生活と関連付けて考察する。 ・中和滴定の実験を通して、それぞれの操作がどのような意味をもっているのかを理解し、実験結果に対してどのような影響があるかを考察できる。 ・代表的な酸化剤・還元剤の観察から電子の授受としての規則性を見いだし、自らの考えで表現できる。	0	0	0	0	
		(態)	・酸、塩基や中和反応に関心をもち、それらを日常生活に関連付けて、意欲的に探究しようとする。 ・酸と塩基の反応の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。 ・燃焼、金属の溶解や腐食などの反応に興味をもち、電子の授受という観点から、それらを意欲的に探究しようとする。 ・酸化還元反応の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。 ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。		0	0	0	

教科・分野:	保健体育	科目:	体育		単位数:	2	指導学年:	1
担当教諭:								
使用教科書	現代高等保健体育(大修	館書店)		副教材				
<b></b>				田川狄州				

## 年間指導目標:

中学校の体育活動を基に、運動能力と体力を高め、積極的に運動する基礎を造る。自分の能力・適正に応じて運動を合理的に実践 し、生涯にわたって活用する運動の技術を身につけるとともに、自主的、かつ計画的に運動する基礎をつくる。スポーツを通じ、競技 の意義を正しく理解し、公正な態度と協力し合う意識を養い、最大限の努力と協力をする習慣を身につける。

	知識・技能(知)	思考力・判断力・表現力(思)	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力(態)
	運動の合理的、計画的な実践に関する	自己や仲間の課題を発見し、合理的、	運動の楽しさや喜びを深く味わうこと
	具体的な事項や生涯にわたって運動を	計画的な解決に向けて、課題に応じた	ができるよう、運動の合理的、計画的
	豊かに継続するための理論について理	運動の取り組み方や目的に応じた運動	な実践に自主的に取り組もうとしてい
評価規準	解しているとともに、目的に応じた技	の組み合わせ方を工夫しているととも	る。
	能を身に付けている。	に、それらを他者に伝えている。	

b:パフォーマンス (実技・実習・課題)c:小テスト等d:自己評価e:授業態度

配当

時数 学期 考査 単元及び指導内容 観点 評価規準 d а b С е オリエンテーション 【種目全般】技の名称や行い方、運動観察の方 法、体力の高め方などについて理解している。 体つくり運動 (知)  $\bigcirc$ スポーツテスト 【体育理論】運動やスポーツの効果的な学習の仕 方について理解している。 体育理論 種目の技能などについて自己や仲間の課題を発見 中 1 し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工 間 学 (思)  $\bigcirc$ 12  $\bigcirc$ 夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝え 考 期 運動に自主的に取り組むとともに、一人一人の違 いに応じた課題や挑戦を大切にしようとすること (態)  $\bigcirc$ などをしたり、健康・安全を確保したりしてい 【3種目3展開:球技(サッカー)】安定したボール 3種目3展開 ①球技(サッカー) 操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール (知)  $\bigcirc$ ②球技(ソフトボール) 前への侵入などから攻防をすることができる。 ③球技(バスケットボール) [上記のうち1種目実施] 種目の技能などについて自己や仲間の課題を発見 期 1 し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工 末 学 (思)  $\bigcirc$  $\bigcirc$ 12 水泳 考 夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝え 期 ている。 杳 運動に自主的に取り組むとともに、一人一人の違 いに応じた課題や挑戦を大切にしようとすること (態)  $\bigcirc$ などをしたり、健康・安全を確保したりしてい る。

	中	水泳 3種目3展開 ①球技(ソフトボール) ②球技(バスケットボール)	(知)	【水泳】複数の泳法で継続して泳ぐことができる。【3種目3展開:球技(ソフトボール)】安定したバット操作と走塁での攻撃,ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができる。	0				
学期	間考查	③球技(サッカー) [上記のうち1種目実施]	(思)	種目の技能などについて自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。		0	0		16
			(態)	運動に自主的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。				0	
		3種目3展開 ①球技(バスケットボール) ②球技(サッカー) ③球技(ソフトボール)	(知)	【3種目3展開:球技(バスケットボール)】安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	0				
2 学 期	期末考査	[上記のうち1種目実施] 体育理論	(思)	種目の技能などについて自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。		0	0		16
			(態)	運動に自主的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。				0	
		陸上競技(長距離走) 体つくり運動(なわとび) 体育理論	(知)	【長距離走】自己に適したペースを維持して走ることができる。 【なわとび】自己の課題に応じてさまざまな技について理解し、挑戦することができる。	0				
3 学 期	学年末考査		(思)	種目の技能などについて自己や仲間の課題を発見 し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工 夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝え ている。		0	0		22
			(態)	運動に自主的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。				0	
		<u> </u>		1				合計	78

教科・分野:	保健体育	科目:	保健		単位数:	1	指導学年:	1
担当教諭:								
使用教科書	現代高等保健体育(大修	館書店)		副教材				
区用软件音				田水水				
/ BB II > + B I = I =								

## 年間指導目標:

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 健康についての自他や社会の 課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 生涯を通じて 自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

	知識・技能(知)	思考力・判断力・表現力(思)	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力(態)
	個人及び社会生活における健康・安全	健康についての自他や社会の課題を発	生涯を通じて自他の健康の保持増進や
	について理解を深めているとともに、	見し、合理的、計画的な解決に向けて	それを支える環境づくりを目指し、明
	技能を身に付けている。	思考し判断しているとともに、目的や	るく豊かで活力ある生活を営むための
評価規準		状況に応じて他者に伝えている。	学習に主体的に取り組もうとしてい
			る。

 a:定期考査
 b:パフォーマンス (実技・実習・課題)
 c:小テスト等
 d:自己評価
 e:授業態度

配当

単元及び指導内容 評価規準 時数 学期 考査 観点 С е а 現代社会と健康(1単元) 健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復に 1.健康の考え方と成り立ち は、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生 (知)  $\circ$ 活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が 2.私たちの健康のすがた 3.生活習慣病の予防と回復 必要であることを理解している。 中 4.がんの原因と予防 1 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や 間 5.がんの治療と回復 学 6 安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を 考 期 0  $\bigcirc$ (思) 思考し判断しているとともに、それらを表現して 査 いる。 現代社会と健康についての学習に主体的に取り組 (態)  $\bigcirc$ もうとしている。 喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になるこ 現代社会と健康(1単元) 6.運動と健康 と。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻 (知)な影響を与えることから行ってはならないこと。 7.食事と健康  $\bigcirc$ 8.休養・睡眠と健康 それらの対策には、個人や社会環境への対策が必 9.喫煙と健康 要であることを理解している。 期 10.飲酒と健康 1 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や 末 学 11.薬物乱用と健康 6 安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を 老 期 (思)  $\bigcirc$  $\bigcirc$ 思考し判断しているとともに、それらを表現して 査 現代社会と健康についての学習に主体的に取り組 (態) もうとしている。  $\bigcirc$ 

		現代社会と健康(1単元) 12.精神疾患の特徴 13.精神疾患の予防 14.精神疾患からの回復	(知)	精神疾患の予防と回復には、心身の不調に気付く ことが重要であることや疾病の早期発見及び社会 的な対策が必要であることなどを理解している。	0				
2 学 期	中間考査		(思)	現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。		0	0		8
			(態)	現代社会と健康についての学習に主体的に取り組 もうとしている。				0	
	期	現代社会と健康(1単元) 15.現代の感染症 16.感染症の予防 17.性感染症・エイズとその 予防	(知)	感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解している。	0				
2 学 期	末考	18.健康に関する意思決定・ 行動選択 19.健康に関する環境づくり	(思)	現代社会と健康について、課題を発見し、健康や 安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を 思考し判断しているとともに、それらを表現して いる。		0	0		8
			(態)	現代社会と健康についての学習に主体的に取り組 もうとしている。				0	
	学,	安全な社会生活(2単元) 1.事故の現状と発生要因 2.安全な社会の形成 3.交通における安全 4.応急手当の意義とその基	(知)	安全な社会づくりや交通事故防止に関することや 応急手当の手順や方法、速やかに行う必要がある ことなどを理解し、心肺蘇生法などの応急手当を 適切に行う技能を身に付けている。	0				
3 学期	年末考査	本 5.日常的な応急手当 6.心肺蘇生法	(思)	ているとともに、それらを表現している。		0			11
			(態)	安全な社会生活についての学習に主体的に取り組もうとしている。			0	0	
								合計	39

教科・分野:	芸術	科目:	音楽丨			単位数:	2	指導学年:	1
担当教諭:									
使用教科書	Tutti+ 教育出版社			副教材	自主教材				
				田川子入作					

## 年間指導目標:

- ・読譜能力の向上と応用・グループ実習により互いを尊重し高めあい、協力する力を培う。
- ・我が国の伝統的楽器を演習することにより、日本の文化に興味関心を持てるようにする。
- ・歌唱表現や楽器を通して自主性や表現力を養う。

	知識・技能(知)	思考力・判断力・表現力(思)	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力(態)
	・曲想と音楽の構造を理解し、音楽表	・音楽に必要な表現を身に付け、意図	・音楽を通して、その音楽文化や曲想
	現に必要な技能を習得する。	を理解する。	について真剣に取り組む。
評価規準			

配当

時数 単元及び指導内容 評価規準 学期 観点 考査 d b С е ・曲想と音楽の構造を理解し、音楽表現に必要な ・発声、呼吸法、体の仕組 技能を習得する。 (知) \*  $\bigcirc$  $\bigcirc$ みと発声 ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い ・ソルフェージュ 方などの技能を身に付け歌唱で表している。 ・イタリア歌曲 ・音楽に必要な音色、リズム、旋律、強弱などの 中 1 表現を身に付け、意図を理解する。 学 (思) 12 0 Ж **※**  $\bigcirc$ 考 期 査 ・音楽を通して、その音楽文化や曲想について真 剣に取り組む。・イタリア語の言葉の特性や曲に (熊) 0  $\bigcirc$ \* Ж ふさわしい発音で表情豊かに歌うことに関心を持 ち学習に取り組む。 ・日本の伝統音楽、楽器実 ・曲想と音楽の構造を理解し、音楽表現に必要な 習 技能を習得する。 (知) 0 \* \* 0 ・楽語 ・音楽に必要な音色、リズム、フレーズ、強弱な 期 1 どの表現を身に付け、意図を理解する。 末 学 (思) 12 Ж Ж 0 考 査 ・音楽を通して、その音楽文化や曲想について真 剣に取り組む。 (態)  $\bigcirc$ \* \*  $\bigcirc$ 

		<ul><li>・発声、呼吸法</li><li>・ソルフェージュ</li><li>・ギター奏法研究</li></ul>	(知)	・曲想と楽器の音色、音楽の構造と奏法を理解し、音楽表現に必要な技能を習得する。	0	*	*	0	
2 学 期	中間考査		(思)	・音楽に必要な音色、リズム、旋律、強弱などの 表現を身に付け、意図を理解する。	0	*	*	0	16
			(態)	・音楽を通して、その音楽文化や曲想について真 剣に取り組む。 ・ギターの奏法を身に付けることや音楽表現を創 意工夫しながら演奏することに関心を持つ。	0	*	*	0	
		・歌唱 ・合唱 ・楽語	(知)	・曲想と音楽の構造を理解し、音楽表現に必要な技能を習得する。 ・日本語の言葉の特性と曲種に応じた発声を理解する。	0	*	*	0	
2 学 期	期末考査		(思)	・音楽に必要な音色、リズム、旋律、音程、強弱などの表現を身に付け、意図を理解する。	0	*	*	0	16
			(態)	・音楽を通して、その音楽文化や曲想について真剣に取り組む。 ・曲にふさわしい発声を意識し、自己のイメージを持って創意工夫することに関心を持つ。	0	*	*	0	
	学	・様々なジャンルの音楽 ・グループ実習 ・ソルフェージュ ・楽語	(知)	・曲想と音楽の構造を理解し、音楽表現に必要な技能を習得する。 ・反復、変化などの手法を活用して音楽をつくる 技能を身に付け表している。	0	*	*	0	
3 学期	子年末考香		(思)	・音楽に必要な音色、リズム、旋律、強弱などの 表現を身に付け、意図を理解する。	0	*	*	0	22
			(態)	・音楽を通して、その音楽文化や曲想について真 剣に取り組む。 ・奏法を身に付けることや音楽表現を工夫しなが らアンサンブル活動することに関心を持つ。	0	*	*	0	
	_							合計	78

東京都立	<b>Z八王子桑志</b> 语	事学	校 令和7	年度:	年間指	導計画	「(シラ	<b>バス</b> )	
教科・分野:	芸術	科目:	美術			単位数:	2	指導学年:	1 (AB)
担当教諭:									
使用教科書	「高校美術丨」日本文	副教材	自主教材・参考作品材						
年間指導目標: ・美術の創造活動を通して、造形的な見方、考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や文化と幅広く関わる姿勢や能									
力を育成するこ	ことを目標とする。								

	知識・技能(知)	思考力・判断力・表現力(思)	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力(態)
	・対象や事象を捉え造形的な視点につ	・課題の趣旨を理解する。	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く
	いて理解を深める。	・美術の表現に必要な知識や技能を総	学習に取り組む。
	・表現に必要な基礎的技能を身に付け	合的にはたらかせ、制作を行う。	
評価規準	る。		

評価方法 b:パフォーマンス d:自己評価 a:定期考查 c:小テスト等 e:授業態度 (実技・実習・課題)

配当

単元及び指導内容 評価規準 時数 学期 考査 観点 b С е ・デザイン ・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を 「デザインについて考え 深める。  $\circ$ (知)  $\bigcirc$ Ж \* る」デザインとアートの役 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。 割や社会的な意義について 考察を行い、自らのデザイ ・課題の趣旨を理解する。 中 1 ンのアイディアを提案す ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはた 間 学 (思) 12  $\bigcirc$ **※ ※**  $\bigcirc$ る。グループ・クラス内で らかせ、制作を行う。 期 のプレゼンテーションを行 う。 ・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り 組む。 (態) 0  $\bigcirc$ **※ ※** ・素描(静物) ・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を 「幾何形体」 深める。 (知)  $\bigcirc$ \* 0 **※** 美術の表現に必要な素描の ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。 基礎について学ぶ。 ・鑑賞 ・課題の趣旨を理解する。 期 1 デザインに関する内容の鑑 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはた 末 学 (思) 0 Ж 0 12 賞を行う。 考 らかせ、制作を行う。 期 査 ・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り 組む。 (態)  $\bigcirc$  $\bigcirc$ **※ ※** 

		・鑑賞 絵画「油彩模写」の導入と なる鑑賞を行う。 ・絵画「油彩模写」	(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を 深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。	0	*	*	0	
2 学 期	2     市       ヴ     オ       人」を模写する。       無     金       絵画(油彩)の基礎的	絵画(油彩)の基礎的な表	(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはた らかせ、制作を行う。	0	*	*	0	16
		現技法について学ぶ。	(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り 組む。	0	*	*	0	
	<b></b>	・絵画「油彩模写」 レオナルド・ダ・ヴィンチ の作品「白貂を抱く貴婦 人」を模写する。	(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を 深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。	0	*	*	0	
2 学 期	期末考査	現技法について学ぶ。 ・鑑賞 映像メディアに関する内容	(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはたらかせ、制作を行う。	0	*	*	0	16
		の鑑賞を行う。	(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り 組む。	0	*	*	0	
	犯	<ul><li>・デザイン(構成デッサン)</li><li>意図やねらいを考えて任意のモチーフを構成しデッサ</li></ul>	(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を 深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。	0	*	*	0	
3 学期	子年末考香	未 人体の構造について理解を 深める。	(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはたらかせ、制作を行う。	0	*	*	0	22
	4		(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り 組む。	0	*	*	0	
								合計	78

東京	「都ゴ	工八王子桑志高等	学村	交 令	`和7	年度:	年間指	導計	·画(	シラ	ラバ	ス)			
教科・	分野:	芸術    科目	:	美術				単位数	2		指導	学年:	1 (C	-F)	
担当教	諭:	·													
使用教	科書	「高校美術丨」日本文教出版	ξ			副教材	自主教材・	・参考作	品						
・美術	の創造》	: : : : : : : : : : : : : : :	考えフ	与を働か	かせ、美的	体験を重ね	、生活や社	土会の中	の美術や	文化と	幅広く	、関わ	る姿勢	やや能	
評価	教担 使     年・力       計算     日       計算     目       計算     日       計算     日       計算     日       日     日	知識・技能(知) ・対象や事象を捉え造形的ないて理解を深める。 ・表現に必要な基礎的技能を			課題の趣美術の表	返旨を理解す 現に必要な	表現力(思 <sup>-</sup> る。 :知識や技能 引作を行う。	じを総 ≐	・対象や ・対象や 学習に取	事象を	捉え、				
		a:定期考查				フォーマンス・実習・課題)	評価方 c:小テス		等 d:自己評価 e:授業態度						
														配当	
2440	±/ <del>*</del>	単元及び指導内容	#B .F			評価規	淮							│धा≡ ┃時数	
子朔		・デザイン 「デザインについて考え る」デザインとアートの役 割や社会的な意義について	(知)	深める。	,	足え造形的	<u>年</u> な視点につ を身に付け		a 译を	<u>Б</u>	<u>с</u> Ж	<u>d</u> <u>**</u>	О	H/J &/	
学	間 考	考察を行い、自らのデザインのアイディアを提案する。グループ・クラス内でのプレゼンテーションを行	(思)	<ul><li>美術な</li></ul>			や技能を総	合的には	はた	0	*	*	0	12	
		う。	(態)	・対象 <sup>x</sup> 組む。	対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り 引む。				<b>Σ</b> θ	0	*	*	0		
		・素描(静物) 「幾何形体」 美術の表現に必要な素描の 基礎について学ぶ。	(知)	深める。	,		な視点につ		<b>学を</b>	0	*	*	0		
学	末考	・鑑賞 デザインに関する内容の鑑賞を行う。	(思)	・美術の			や技能を総	合的には	はた	0	*	*	0	12	
			(態)	・対象 <sup>*</sup> 組む。	や事象を	促え、丁寧	に粘り強く	学習に取	Qθ	0	*	*	0		

		<u> </u>						合計	78
			(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り 組む。	0	*	*	0	
3 年 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対	学年末考査	ンを行う。 ・素描「自画像」 人体の構造について理解を 深める。	(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはた らかせ、制作を行う。	0	*	*	0	22
	W	<ul><li>・デザイン(構成デッサン)</li><li>意図やねらいを考えて任意のモチーフを構成しデッサ</li></ul>	(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。	0	*	*	0	
		・鑑賞 映像メディアに関する内容	(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り 組む。	0	*	*	0	
2 学期 末考査	末考		(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはたらかせ、制作を行う。	0	*	*	0	16
			(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を 深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。	0	*	*	0	
			(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り 組む。	0	*	*	0	
2 学 期	中間考査	サザエの構造を理解する。	(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはたらかせ、制作を行う。	0	*	*	0	16
		<ul><li>・鑑賞</li><li>彫刻「サザエの塑像」の導入となる鑑賞を行う。</li><li>・素描「サザエ」</li></ul>	(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を 深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。	0	*	*	0	